

地区支部活動報告

東部地区支部

墨田区 江東区 荒川区 足立区 葛飾区 江戸川区



実績	(1) 地区支部研修 6月 9日 想いを汲み取る認知症看護1基礎編 受講者34名 満足度4.3 7月 7日 終末期を支えるACPの実践1基礎編 受講者61名 満足度4.4 9月 9日 想いを汲み取る認知症看護2実践編 受講者24名 満足度4.6 10月14日 終末期を支えるACPの実践2実践編 受講者41名 満足度4.7
	(2) 第32回看護研究実践報告会 11月18日 発表数6演題 参加者38名 (3) まちの保健室 応急処置・AEDの使用方法、健康体操「体幹を鍛えよう」、血圧・体脂肪測定、健康相談、口腔フレイル・口腔体操、日常の防災について 東日暮里ふれあい館 6月3日 来場者8名 令和6年2月17日 来場者12名

成果	地区支部研修については、引き続きオンラインを有効に活用し実施。認知症ケアに関する研修は、前年より参加者は減少したが満足度は高くなった。認知症に関する研修は各施設でも実施されていることから、ACPに関する研修と比較するとニーズは低くなると考えている。しかし、認知症患者への関わりは、ACPよりも臨床での遭遇頻度が多いことが予測されるため、参加者の満足度はACPよりも高くなりやすかったと考える。ACPIについては引き続きニーズが高いと考える。 看護研究実践報告会では、医療機関を越えた「看護」に関する課題や取り組みの共有をポジティブに捉える意見があった。また管理職からは、大規模な学会ではないため、気軽に職員に院外での発表の機会を与えられるとの意見もあり、来年度以降も継続していく。 まちの保健室では、今年度も引き続き東日暮里ふれあい館を利用し開催した。過去実施していたショッピングモール開催と比較すると、人が流動する場所ではないため、落ち着いた参加していただけること、ターゲットを絞ってニーズにあった情報提供ができていると考えている。 広報では、ウェブサイトを活用した情報発信を行うことができている。配信内容と時期も定まりつつある。今後もより多くの方に情報が届くような提案ができるよう検討していく。
----	--

西部地区支部

新宿区 中野区 杉並区 豊島区 北区 板橋区 練馬区



実績	(1) 地区支部研修 フィジカルアセスメント 講師：山内豊明氏(放送大学大学院文化科学研究科生活健康科学教授) 8月 5日 心電図の読み方とフィジカルアセスメント 参加者37名 10月28日 検査データの読み方・画像の見方とフィジカルアセスメント 参加者38名 11月18日 心電図の読み方とフィジカルアセスメント 参加者38名 12月 9日 検査データの読み方・画像の見方とフィジカルアセスメント 参加者41名
	(2) まちの保健室 血圧測定、体脂肪測定、認知症評価ツールを用いた療養相談 11月18日 王子駅前サンスクエアガーデン 来場者46名 (3) 地域における看看連携の推進

成果	地区支部研修は、継続して開催しているフィジカルアセスメント研修参加者の満足度が非常に高くなっている。また会員以外の参加もあるため入会勧誘の機会となっている。 まちの保健室は3年ぶりに開催した。46名の参加があり高齢者を中心に非常に好評であると評価できる。開催会場が駅前ということで、参加しやすい会場選定ができたと考えられる。 組織強化・会員拡大については、西部地区の会員数は減少しており引き続き対応策を検討したい。 看看連携の推進については中野区役所の保健師（行政）との繋がりを持つことができた。今後も連携を深めていきたい。
----	---

南部地区支部

品川区 目黒区 大田区 世田谷区 渋谷区



実績	(1) 地区支部研修 7月 8日 メンタルサポート ～リーダーナースを支えよう～ 受講者12名 9月 9日 心電図の基礎 受講者27名 10月20日 看護に活かす心電図 受講者30名 11月11日 高齢者看護 高齢者の意思決定支援を学ぼう 受講者65名
	(2) まちの保健室 手洗い教室と応急処置包帯法 9月 9日 目黒区立原町住区センター児童館 参加者13名 9月30日 渋谷区加計塚小学校放課後クラブ 参加者25名 (3) 諸会議への参加、委員会との連携 1) 地域包括ケア委員会活動 2) ハートノート普及活動 3) 東京都南部地域医療構想調整会議等への参加

成果	地区支部研修は年4回計画し、4回中2回はZOOM開催で実施した。研修の参加者の理解度や満足度は高く、各研修の目的は達成できた。会報誌「看護とうきょう」に2施設紹介、地区支部ウェブサイト到医院紹介を2施設掲載したことにより、当該病院の機能を知ることができ地域連携を図るための情報提供ができた。各広報については次年度もウェブサイトへタイムリーに掲載していくことに努めていきたい。 まちの保健室では、今回より手洗い教室に加え、応急処置の包帯法を取り入れて実施した。学童は楽しく学ぶことができ、保護者や職員からは次年度も是非やってほしいとの意見が聞かれた。 地域包括ケア委員会活動は、ほぼ予定通り開催でき委員同士の理解と協力体制ができた。地域で慢性心不全患者を支えていくための第一歩として、引き続き在宅療養を支援する医療従事者を含めた勉強会を計画し実行する。 ハートノート普及活動はYouTube紹介をきっかけとして、各区内で看看連携を図り情報提供・情報共有を行うことができた。 東京都南部地域医療構想調整会議等へは、全会議出席することができた。医師の働き方改革についてや、新型コロナウイルス感染症5類移行に伴う地域の病床運用状況、看護師及び介護士不足の現状等の情報共有ができた。今後も地域での連携強化が必要であることが確認された。
----	--

中部地区支部

千代田区 中央区 港区 文京区 台東区

大島町 利島村 新島村 神津島村 三宅村 御蔵島村 八丈町 青ヶ島村 小笠原村



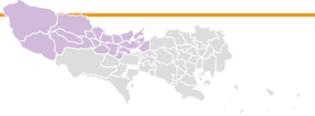
実績	(1) 地区支部研修 6月17日 心電図ベーシックコース 受講者14名 7月22日 緩和ケアにおけるエビデンスに基づいた看護支援 ～エンドオブライフケア～ 受講者40名 9月16日 コミュニケーション 受講者25名 10月14日 心電図ベーシックコースプラスα 受講者32名 11月11日 国際看護～外国籍の方への対応に活かす、多様性のまなざし～ 受講者25名
	(2) まちの保健室 会場：飯田橋ラムラ 血圧測定、握力測定、体脂肪測定、健康相談、ACPパンフレット配布 11月18日 参加者41名 令和6年2月17日 参加者36名 (3) 諸会議への参加、委員会との連携 (4) 東京マラソン2024 令和6年3月3日 医療救護所へ看護師派遣4名

成果	地区支部研修については全て対面で実施した。参加者のアンケートからは、対面での実施を望む声が聞かれ、反応も良かった。ほとんどの項目で90%以上の方が良かったと評価しており、全回実施できたことは良かった。昨年、支部研修を知らなかった方がいたことから、役員のいる施設にチラシを配布し周知したことも良かったと考える。今後は、他地区支部にも広げていきたい。 まちの保健室は、3回実施する予定であったが、会場工事の関係上2回の実施となった。参加者は平均約39名で、60～80代の方が大半であった。血圧や握力測定からフレイル予防などの日常生活上のアドバイスを実施し好評だった。ACPIについても周知する機会となった。 地域包括ケア委員会中部地区支部会議では、医療施設がそれぞれの役割機能を果たせる療養支援の仕組みを確立することや、「在宅・地域とつながることで、地域包括ケアに貢献できる」として、取り組みを行った。台東区の部長会において課題の共有と解決に向けて取り組み、千代田区においても部長会が繋がりを持ち、交流会の企画などに取り組んだ。 会員の獲得に向けた活動では、会員のニーズに応じた地区支部研修を開催した。また、各地区支部委員が、医療圏及び所属施設内での会員募集に向けたアナウンスをするよう働きかけた。広報活動でもウェブサイトや会報を活用し、地区支部活動のアピールを行った。
----	--

多摩北地区支部

立川市 青梅市 昭島市 小平市 東村山市 国分寺市 国立市 福生市 東大和市 清瀬市

東久留米市 武蔵村山市 羽村市 あきる野市 西東京市 瑞穂町 日の出町 檜原村 奥多摩町



実績	(1) 地区支部研修 5月 6日 人材育成 中途採用者を含むスタッフ育成について理解する 受講者28名 6月10日 防災研修 地域・自施設で実践できる防災、減災の基礎を学ぶ 受講者34名 7月 1日 メンタルヘルス 自分らしく楽しく看護をするために看護師のメンタルヘルスを学ぶ 受講者34名 10月 7日 高齢者看護Ⅰ 人生の最終段階にある高齢者について理解する 受講者33名 11月 4日 高齢者看護Ⅱ 看取りの意思決定支援の大切さを学ぶ 受講者36名 2月 3日 新人教育 新卒看護師の教育的支援について理解する 受講者24名
	(2) まちの保健室 会場：東村山公民館 7月15日 血圧、体脂肪測定、握力測定、健康パンフレットの配布 参加者26名 9月16日 血圧、体脂肪測定、握力測定、健康パンフレットの配布 参加者33名 11月18日 血圧、体脂肪測定、握力測定、健康パンフレットの配布 参加者25名 (3) 関係会議出席、協会活動への参加協力 地域医療構想調整会議2回、在宅療養ワーキング会議1回、二次保健医療圏地域災害医療連携会議(北多摩北部、北多摩西部)に参加した。 (4) 東京マラソン2024 令和6年3月3日 医療救護所へ看護師派遣1名

成果	新型コロナウイルス感染症が5類移行となり、地区支部研修会場の確保が可能となり、研修定員を20名から50名に増員することが可能となった。会場も余裕をもって使用することができ、受講人数の増加にもつながった。 まちの保健室は昨年2回の開催となったが、予定通り7月・9月・11月3回開催した。地域住民の健康啓発につながる活動が行えた。感染対策等に留意し問題なく実施できた。 広報活動は、地区支部のウェブサイトを定期的に更新し、研修開催報告、施設紹介など計画通りに情報発信することができた。
----	--

多摩南地区支部

八王子市 武蔵野市 三鷹市 府中市 調布市 町田市 小金井市 日野市 狛江市 多摩市 稲城市



実績	(1) 地区支部研修 7月22日 モニター心電図で診断できない心電図異常の読み方～モニター心電図を卒業しよう 受講者41名 10月21日 日常臨床で遭遇する不整脈について、その診断とマネジメントをすべて学ぶ 受講者56名 12月 9日 心不全患者の看護 受講者38名
	(2) まちの保健室 会場：しばさき彩ステーション(調布市) 5月29日 血圧測定、酸素飽和度測定、看護相談、じぶんノート(調布市版エンディングノート)の説明 参加者11名 8月21日 血圧測定、酸素飽和度測定、看護相談、じぶんノート(調布市版エンディングノート)の説明、熱中症について、看護学生について 参加者13名 10月23日 血圧測定、酸素飽和度測定、看護相談、ベジチェックを用いた野菜摂取測定、骨粗鬆症の説明、インフルエンザの説明 参加者8名 1月29日 血圧測定、酸素飽和度測定、ベジチェックを用いた野菜摂取測定、ヘモグロビン測定、看護相談 参加者12名 (3) 関係会議出席、協会活動への参加協力 11医療圏看護管理者会議出席(2回)、北多摩南部医療圏地域医療構想調整会議(2回)、在宅WG会議(2回) (4) 東京マラソン2024 令和6年3月3日 医療班へ看護師派遣2名

成果	地区支部研修では「心不全患者の看護」を新規に行い、定員に対する受講率が95%となり盛況となった。心不全パンデミックといわれるように、心不全患者の急増とそのケアの必要性にあった実践的内容であったことが看護職のニーズにあったと考える。また、フライヤーを作成し、役員および11医療圏看護管理者などのメールにて配布し、広報活動も行った。 地区支部地域包括ケア委員会に支部長が参加し、地域包括ケアセンター、老健施設などを訪問することで、地域の看護職のニーズ把握の一助となった。次年度の研修および令和7年度以降の地域における看護活動への架け橋となることを期待する。
----	---